

浄土教美術の代表作・禅林寺本山越阿弥陀図

国宝 山越阿弥陀図

禅林寺 蔵

解説 光森正士

特別軸装・複製



国 宝

山越阿弥陀図



- 禅林寺 蔵
- 解説 光森正士

刊行にあたって

山越阿弥陀図は臨終仏の対象として使われたことで、他の来迎図とは全く異なるものです。そしてまた、大和絵の日本の山水自然美の中に仏画の聖なる美しさをとりいれたことに、その絵画的特色があります。特に禅林寺所蔵の絹本着色『山越阿弥陀図』はこの特色を最も生かして創作されたものであり、浄土

教美術品の逸品として珍重されております。中央には說法印を結ぶ大きな阿弥陀仏、山を隔て前方左右に観音、勢至の二菩薩、下方に二童子と四天王が配される構図となっており、阿弥陀仏三尊が遙か彼方の西方浄土より来迎されるという、広大無辺の時空を見事に表現した、優れた図様といえます。

あたたかみがあり、色彩豊かな大和絵風の情景描写と、仏画の崇高さが一体となった、浄土教美術の最高傑作の一つであります。

《仕様・体裁》

- 画幅寸法／七三・〇cm×六一・五cm
- 軸寸法／一五八・〇cm×七九・〇cm
- 印刷／カラーグラビア八色刷
- 用紙／特漉鳥の子紙
- 柙目桐篭入
- 解説書／A5判袋和綴

発行所／同朋舎出版

〒600 京都市下京区中堂寺鍵田町 2

TEL.075-343-0621